

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

論述 (1行30字 2行×2・3行×4・5行×1 計21行)

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

第1問～第4問とも昨年度と同様の出題形式であった。昨年度第2問でみられた図版を利用した問題は出題されなかった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述 5行	9世紀後半の政治体制とその背景	提示された文章から答案に盛り込む要素は比較的容易に判断できたと思うが、まとめるのが少々難しかったかもしれない。	標準
第2問	論述 A 2行 B 3行	地頭の荘園支配	地頭請に関する知識と提示された文章を参考にまとめれば答案は構成でき、比較的書きやすかったと思われる。	やや易
第3問	論述 A 2行 B 3行	富士山噴火の被災地と幕府の対応	A17世紀後半以降の幕府財政上の問題については、2019年度にも問われており、過去問にあっていた受験生は取り組みやすかったであろう。 B付帯条件である「(2)(3)のように対応が異なる理由に注意して」という視点から提示された文章を読み取るのが難しい。	やや難
第4問	論述 A 3行 B 3行	A華族令の意図 B華族令と貴族院制度	A・Bともに史料の内容を丁寧に読み取り、史料から読み取れる情報を盛り込んで答案を構成したい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

できるだけ多くの過去問にあたり、日頃の学習にそれを活かしていくこと。その際、できれば解答を作成し、添削指導を受けることが望ましい。そして、第1問から第3問でみられる提示された文章の答案への反映の仕方にできるだけ早く慣れたい。また、第4問の近現代に関しては正確な知識が要求されるので、量よりも質を意識した学習を進めたい。さらに、文化史を不得意分野にしないこと。作品暗記だけの文化史学習では通用しないことを意識して、各文化の特徴を把握しつつ政治・外交・経済との関わりに十分注意すること。